

「子どもが心配」チェックシート（岡山版）

使 い 方

I 「子どもが心配」チェックシート（岡山版）とは

1 はじめに

『「子どもが心配」チェックシート（岡山版）』（以下「チェックシート」という。）は、イギリスで開発されたアセスメントツールである『The Graded Care Profile (GCP) Scale』（以下「GCP」という。）を翻訳し、日本の風土や生活習慣に合うように開発したものです。

2 子どもを中心としたアセスメント

チェックシートは、GCPと同様、人間の自己実現のために満たされる必要がある「カテゴリー」を、一定の基準に照らして分けることで、子どもに関わる様々な支援者や専門機関の人々が、親中心ではなく、子どもを中心としてアセスメントできるように考案されています。

3 「カテゴリー」とは

「カテゴリー」とは、「基本的生活」「安全・安心」「愛情」「子どもの尊厳」の4つであり、それらが「項目」に分けられ、さらに「細事項」へと分かれています。

例えば、「愛情」のカテゴリーでは、親が子どもと接するときの姿勢を2つの項目と、5つの細事項に分けてアセスメントをするようになっています。

その1つである「子どもの気持ちを察していますか」という項目の細事項では、「ことばや態度ではっきりと表す前に察しています。子どもが表す、ほんのわずかなサイン（ことば、態度）であっても、しっかりと受け止めています。」から、「泣いたり、怒ったりしても何も感じません。イライラしてしまうことがあります。インパクトのあるサインでさえ何も感じないか、嫌悪することがあります。」まで5つの段階があり、親と一緒にアセスメントを行う支援者や専門機関の人々が実際の状況を確認し、子どもの意見を聴き取るなどして、それを5段階で評価をするようになっています。

その他の「カテゴリー」についても同じように記述があり、支援者や専門機関の人々が実際の状況を確認したことを評価できるようになっています。

4 信頼性と妥当性について

GCPは、イギリスの2つの自治体で、支援者や専門機関の人々が、子どもと親やその家族と協働しながら試行されています。その結果、GCPは、子どもと親やその家族と、支援者や専門機関の人々の協働を促進することがわかりました。

また、支援者や専門機関の人々にとっても使いやすいツールであるということもわかっています。そして、GCPによって明らかにされる結果は、自由記述をする他のツールよりも客観的であると結論づけられています。

チェックシートの質問項目は、GCPの質問項目を最大限活かし、風土や生活習慣にそぐわないものは、その主旨が反映されるように、児童相談所の職員、子ども福祉の政策担当者や有識者により議論を重ねたうえで、開発しています。

そのため、妥当性については、ある程度確認されていると思いますが、今後は、基礎的調査を実施したうえで、信頼性、妥当性について、改めて確認していきたいと考えています。

5 「強さ」と「困難」

チェックシートは、なかなか目には見えにくい親の養育力を、心配なところ（困難）だけではなく、できているところ（強さ）に焦点を置いて評価するアセスメントです。

支援を行うためには、心配なところ（困難）とできているところ（強さ）の双方を評価することが大切です。なぜなら、私たちが目指すのは、子どもの親とその家族が自分の力で、子どもの育ちのニーズをしっかりと満たしていくことができるようになるための支援です。

心配なところ（困難）とできているところ（強さ）の双方を評価することは、具体的な支援を組み立てるときに欠かせません。そういう意味においてもこのチェックシートは、活用しやすい実用的なツールです。

他のアセスメントと併せて、ぜひ、活用してください。

II チェックシートの記入方法について

1 チェックシートの構成

チェックシートを記入するためには、『記入上の着眼点』(P. 49~P. 64), 『「子どもが心配」チェックシート』(P. 65), 『児童票』(P. 66)の3つを使います。

まず、『記入上の着眼点』の表にある文を読み、あてはまる場所に○をつけます。そのときは、『項目別チェックポイント』(P. 39~P. 48)を参考にしましょう。次に『「子どもが心配」チェックシート』へ、その結果を記入します。そして最後に、『児童票』に、それらの結果を記入してまとめます。

2 記入の手順

図-3 記入上の着眼点への記入例

A 基本的生活		A	B	C	D	E
食 事	① 栄養バランスや食材に気を配っていますか。	子どもの食事に 関する知識があり、食 材の安全性や、栄養 バランスにも気を配 っています。	子どもの食事に 関する知識があり、安 くてもよい食材を 選び、栄養バランス にも気を配っています。	安くてもよい食 材を選び、栄養バ ランスに気を配る時 と、そうでない時と があります。	あまり気を配って いません。質や栄養バ ランスがとれていない 食事が多いです。 プレッシャーを感じ ることがあれば一時 的には気を配りま すが続けられません。	まったく気を配って いません。 尋ねられたら、「気 を配っている」など 嘘をつく場合もあ ります。
	② 食事の量は どうですか	いつも十分 足りています。	足りています。	「足りない」と 言うことがあ ります。	「足りない」と 言うことがあ ります。	いつも「足りない 」と言います。
	③ 育ちに応じた食 事をつくっています か(子ども向けの味 付け、調理の工夫、 盛りつけなど)	いつもつく っています。	なるべくよいに しています。	ときどきつく っています。	つくって いません。 大人が中心で す。	食事をつくる ことがほとん どありません。 子どもは、お 菓子を食べて います。
	④ 食育を実践 していますか(健康 によい食べ物を 選ぶ力、マナー よく食べる力、 自然環境や食料 問題について考 える力を育む)	しっかり考 え、実践して います。 坐る場所、食 事の時間も決ま っており、マ ナーにも配慮 しています。	実践して います。 食事の時間は 決まっていますが、 ときどき坐 る場所は変わ ります。	ときどき実 践していま す。 坐る場所、食 事の時間は 不規則ですが、 大体決まっ ています。	実践して いません。 坐る場所、食 事はまったく 不規則です。	関心があ りません。 いつ、何を 食べるの かも決ま っていま せん。

図-3

① 『記入上の着眼点』に子どもの情報を照らしあわせて、適当と思われる欄に○をします。また、記入は鉛筆で行います。

○をした内容は両隣の欄の内容と比較して、適当かどうか再確認します。



図-4「子どもが心配」チェックシート記入例

1 基本的生活		③ B	2 安全・安心		
ア 食事			ア 親と一緒にいるとき		<input type="checkbox"/>
① 栄養バランスや食材に気を配っていますか		② B	① 危険に気づいていますか		<input type="checkbox"/>
② 食事の量は どうですか		A	② ①の危険への対策を していますか		<input type="checkbox"/>
③ 育ちに応じた食 事をつくって いますか		B	③ 外出したとき、 安全に気を つけて いますか		<input type="checkbox"/>
④ 食育を実践 していますか		B	④ 家の中は子 どもにと って安全 な場所 になって いますか		<input type="checkbox"/>
イ 住まい			イ 親が不在 のとき		<input type="checkbox"/>
① 安全に配 慮して います か			○ 安全への 対策を して いま すか		<input type="checkbox"/>
② 育ちや 希望に そった 部屋に なっ ていま すか また、 掃除は 行き届 いて いま すか			3 愛情		<input type="checkbox"/>
③ 快適に 暮らす ための 設備が そろ って いま すか			ア 親		<input type="checkbox"/>
			① 子どもの 気持ち を察し ていま すか		<input type="checkbox"/>
			② 子どもの 気持ち により そって いま すか		<input type="checkbox"/>

図-4

② ①で○をした欄の細事項評価をシートに記入します。

③ ②で記入した細事項評価から項目の評価を出し、右上の□に記入します。

細事項評価から項目の評価を出す方法は、P. 37を参照してください。



図-5 「子どもが心配」チェックシート児童票記入例

「子どもが心配」チェックシート 児童票 ④

児童名 岡山 太郎 ケース番号 5 ハ 40
 生年月日 平成17年9月8日 記入年月日 平成22年11月8日
 親の氏名 岡山 花子 記録者氏名 山口

カテゴリー	項目	評 価	カテゴリー評価	備 考
1 基本的な生活	ア 食 事	A (B) C D E	⑥	⑦
	イ 住 ま い	A B (C) D E		
	ウ 衣 服	A (B) C D E		
	エ 清 潔	A (B) C D E		
	オ 健 康	A B (C) D E		
2 安全・安心	ア 親と一緒にいるとき	A B C (D) E	D	
	イ 子どもだけのとき	A B (C) D E		
3 愛情	ア 親	A B (C) D E	D	
	イ 親と子どもの関係	A B C (D) E		
4 子どもの尊厳	ア おなじ目線から見た働きかけ	A B (C) D E	E	
	イ みとめてほめる	A B C (D) E		
	ウ みとめられないことをしたとき	A B (C) D E		
	エ 子どものプライドが傷ついたとき	A B C (D) E		

○当面の支援の目安を設定する項目
 ・「目安を設定する項目」には、カテゴリー／項目／細事項の順に記載すること。
 (例：3/イ/①=愛情/親と子どもの関係/意見交流をしていますか)
 ・不釣り合いに低い評価のある項目は、「使い方」を参照して確認すること。 ⑧

目安を設定する細事項	現在の評価	目安とする評価	期 間	備 考
1. 3 / イ / ①	D	C	1か月	
2. / / /				
3. / / /				
4. / / /				
5. / / /				

“The Graded Care Profile (GCP) Scale ~ A qualitative scale for measure of care of children ~” をもとに、岡山県基準等作成ワーキング・グループが作成(2008)

図-5

④ 児童名，生年月日，親の氏名などを記入します。必要であれば，両親それぞれにシートを作成します。

⑤ 児童票の評価欄に③でシートに記入したすべての評価を○で囲みます。

⑥ カテゴリー評価を記入します。(※評価の方法についてはP.37を参照)そうすることによって，子どものニーズが各々のカテゴリーでどのように満たされているのか全体像が把握できます。

⑦ 備考欄を記入します。ここでは，チェックシートでチェックしきれない気になる点，支援につながる内容を記入します(例えば，「親の疾病」や「医

学的な診断の必要性」，「子どもの障害」など)。

備考欄に記入しておくことで，専門家(弁護士や医師など)の協力を得るヒントとなります。

⑧ 支援の目安を記入します。当面の支援の目安は，例えばカテゴリーの中で低い評価のところをDからC，CからBへ評価を1段ずつ上げていくことを目標とします。そうすることで実現可能な目標となり，親にとっても実現しやすいものとなります。

3 評価を出す方法

「子どもが心配」チェックシートを開発する目的は、子どもの満たされていないニーズを明確にして、“子どもの最善の利益”を確保することにあります。

そのため、評価にあたっては平均をえません。平均を用いると低い評価の意味が明確にならないからです。

図-6 細事項の評価がいずれも「B」以上の場合

1 基本的生活		①	B
ア 食事			
①	栄養バランスや食材に気を配っていますか		B
②	食事の量はどうか		A
③	育ちに応じた食事をつくっていますか		B
④	食育を実践していますか		B

図-6

① 細事項の評価が、いずれも「B」以上の場合には、「B」と「A」の多い方を記入します。

図-7 細事項の評価が「B」と「A」同数の場合

1 基本的生活		②	B
ア 食事			
①	栄養バランスや食材に気を配っていますか		B
②	食事の量はどうか		B
③	育ちに応じた食事をつくっていますか		A
④	食育を実践していますか		A

図-7

② 細事項の評価が「B」と「A」同数の場合には、「B」と記入します。

図-8 細事項の評価に一つでも「C」以下の評価がある場合

1 基本的生活		③	D
ア 食事			
①	栄養バランスや食材に気を配っていますか		B
②	食事の量はどうか		B
③	育ちに応じた食事をつくっていますか		C
④	食育を実践していますか		D

図-8

③ 細事項の評価の一つでも「C」以下の評価がある場合には、たとえ「B」や「A」があったとしても、最も低い評価を記入します。

4 記入にあたっての注意事項

- ① 適切な評価をするためには、家庭訪問を行うなど、日常生活をよく観察し、事実確認を行ったうえで記入します。例外的な状態をもって記入しません（例えば「前夜眠っていない」など）。
家庭訪問をする際には、「チェックシート記入上の着眼点」を持参することが望ましいです。もし、可能であれば親と一緒に確認し評価していきます。
- ② 親が自ら行ったことのみを記入します。
常に誰かの手助けを受けて成り立っていること、親以外の誰かにしてもらって改善がなされたものなどについては記入しません。
- ③ 親に何らかの事情があった場合は、機会を改めて訪問を行い記入する必要があります（※「親の事情」とは、例えば、「親自身が親族と死別したとき」や「失業の直後」、「（親自身の）両親の病気」などをいいます）。
- ④ 親がこちらに対して意図的に間違った情報や印象を与えるようであれば、「E」と記入します。

Ⅲ 項目別チェックポイント

1 基本的な生活

ア 食 事

- ① 栄養バランスや食材に気を配っていますか
- ② 食事の量はどうか
- ③ 育ちに応じた食事をつくっていますか
- ④ 食育を実践していますか

- 栄養バランスのとれた質の良い食材を調理し、献立を考え、決まった時間に準備しているでしょうか。献立、食事時間、調理時間など数日分（2～3日）の食事についてチェックをしましょう。
子どもに、毎日の食事の内容やどう思っているのかなどのお話や意見を聴いて事実を確認することが大切です。
- 子どもの育ちに適した食事の量や、栄養バランスについて知っていますか。もし、知らない場合はその情報を親に提供して話し合みましょう。
また、情報を提供したときの親の反応はどうでしょうか。熱心に聞いていましたか。それとも拒否的だったでしょうか。記録しておきましょう。
- 台所用品や調理器具はそろっていますか。食卓は、子どもが落ち着いて食事ができるように整えられていますか。食卓や台所の様子なども確認しましょう。
- 実際に、親が子どもにどのような内容の食事をどのくらいの量提供しているのか確認してから評価をします。「子どもが少食だから」とか「食べないから」、「偏食があるから」といった事情（親から聞いた理由）は評価の際には考慮しませんが、欄外に記録して支援の参考にしましょう。
食事については、その時間帯に訪問して確認することが望ましいです。
- 親から聞き取りをするときには、誘導的な質問をしないようにします。
可能なかぎり、ありのままの事実を確認して評価しましょう。

イ 住 ま い

- ① 安全に配慮していますか
- ② 育ちや希望にそった部屋になっていますか
また、掃除は行き届いていますか
- ③ 快適に暮らすための設備がそろっていますか

○ 子どもの目線から、住まいに問題がないかを確認します。修理などの努力がなされていたら、親が自身でそれをしたかどうかを確認します。

もし、修理などを福祉機関や家主がしている場合は、親が自ら努力したことにはならないので、評価にあたって考慮しません。

ウ 衣 服

- ① 暑さ寒さに応じた服を着ていますか
- ② 毎日、体にあったサイズの服を着ていますか
- ③ 身なりを整えていますか

○ 子どもの衣服は、品質や素材に配慮したものを選んでいるでしょうか。
また、洗濯やアイロンがけなどをして快適さを保つようになっているでしょうか。

○ 子どもが（年齢に応じて）衣服の快適さを保つための方法を身につけることができるようになっているでしょうか。

エ 清 潔

清潔さを保つための（子どもの年齢に応じた）習慣が身につくようにしていますか

- 清潔さが保たれ、その習慣が身につくようにしているでしょうか。例えば、髪を整える、肌を清潔にする、爪を切る、虫歯の治療をするなどはどうでしょうか。
- 子どもの衛生面を清潔に保つために、どのような取り組みや工夫をしているのか親に尋ねてみましょう。

オ 健 康

- ① 健康に不安があるときは、病院を受診していますか
- ② 必要な治療を受けていますか
- ③ 子どもの健康に関する情報に関心をよせていますか
また、必要な予防接種や健診を受けていますか
- ④ 専門家のアドバイスを活用していますか

(※この質問は、子どもが療育などを受けているか、現在、病気で病院にかかっている場合にチェックしてください。)

- 年齢の小さな子どもがいる場合、予防接種や健診を受けているでしょうか。もし、受けていない場合は理由を聞いて適切な内容か確認しましょう。
- 子どもの健康について専門家（医師や保健師など）に相談をしているか確認しましょう。また、かかりつけ医がいるかについても確認しましょう。
- 親が持っている子どものケガや病気に関する知識で、誤解している点などはないか（親の思い込みなど）、専門家に確認してみましょう。
- 子どもに障害や慢性疾患があっても、親に対して過度な共感（同情）をせず、子どもへの関わりについて客観的に事実を確認して評価しましょう。

2 安全・安心

ア 親と一緒にいるとき

- ① 危険に気づいていますか
- ② ①の危険への対策をしていますか
- ③ 外出したとき、安全に気をつけていますか
- ④ 家の中は子どもにとって安全な場所になっていますか

- このカテゴリーでは、普段、子どもが暮らしている環境が、どのくらい安全であるかをみます。
- 設備の安全性と、日々の暮らしにおける親の行動を評価します。
- 子どもの年齢に応じたチェック項目に記入しましょう。
- 家の中は、子どもにとって安全な場所になっているでしょうか。例えば、赤ちゃんの場合は、口の中に入ると危険なもの（たばこ、ピン、小物など）を近くに置いたままにしない、少し大きくなった子どもの場合は、危険なもの（ハサミ、医薬品、化粧品など）は、子どもの手の届かないところに置いておくといった配慮をしていますか。
- 家の内外や車内の設備は、子どもにとって安全な場所になるよう整えられているでしょうか。例えば、年齢が小さい子どもの場合、ベビーゲートやコーナーガード、チャイルドシートなど必要な設備を整えており、適切に使えていますか。
- もし、子どもが危険にさらされているような場面に出会ったら、直感的に親がどのように反応するか観察しましょう。そのような場面に出会わない場合は、同様の状況でどうするか親に認識を尋ねてみましょう。
- 子どもが道路を横切ることや、戸外で一人で遊ぶことを親が許しているのかを確認するか、尋ねてみましょう。
- 親以外の家族や関係機関にも調査して確認をしましょう。

イ 親が不在のとき
安全への対策をしていますか

- 家の中に親がおらず，子どもだけで留守番をする場合，子どもが安全に安心して過ごすことができるように，留守にする理由や留守にする時間，もし困ったときにはどうすればよいかなどを説明したり，親に代わって世話をしてくれる人をお願いしておくなどの準備や配慮をしていますか。
- 親に代わって世話をしてくれる人に確認をしましょう（親が不在の理由，時間や期間はどのくらいか，世話をしてくれる人の年齢など）。
- 子どもだけで過ごす時間が長い場合は，安全確保のために一時保護を検討する必要がありますので，しっかりと確認をして，児童相談所へ相談しましょう。
- 親の話や訪問だけではなく，近隣や関係機関など家族の暮らしをよく知っている地域の人へも調査を行い確認しましょう。

3 愛 情

ア 親

- ① 子どもの気持ちを察していますか
- ② 子どもの気持ちによりそっていますか
- ③ 子どもとのやりとりはどうか

- 子どもが表すサイン（表情，ことば，態度，しぐさなど）を受け止め，子どもにわかるように声をかけたり，関わりを持っていますか。
- 親が子どもに声をかける，関わりを持つなどのタイミングはどうでしょうか。
- 子どもとのやりとりの質はどうか。機械的なやりとりではなく，優しさや温かさが育まれるやりとりになっているでしょうか。

イ 親と子どもの関係

- ① 意見交流をしていますか
- ② 関係の質はどうですか

- 食事や遊びなど、親子で行う活動場面で子どもとどのような関係を持っているでしょうか。例えば、子どもとしっかりやりとりをしながら関係を持っていますか。また、子どもが色々な意見を言ったり、提案をしたときには、しっかりと聴き、それを受け止めようとしていますか。
- 赤ちゃんの場合は、親へ積極的に甘えて安心感を求めたり、遊んでほしいときに探したりしますか。また、ミルクがほしいときに親へ手を伸ばしたり、お互いに微笑みあったりしていますか。
- 赤ちゃんが授乳中にふれあいを求めて手を伸ばしたり、飲むのを中断して親と目をあわせて微笑みかけるなど、親と子どもが会話し、ふれあい、安心感やたわむれを求めるようなとき、どのような様子なのか確認しましょう。
- 子どもに気質上（気性が激しい、マイペース過ぎる、集中力がないなど）または行動上（盗み、乱暴、自傷など）の問題が見られている場合は、すぐに障害と決めつけることなく、今後の支援のために、いつ、どこで、誰と、どのような場面で、どの程度その問題が見られているのか具体的な内容を記録しておきましょう。
- 家庭訪問などを行っているときに、親子のやりとりが自然になされている場面に出会えたら、この項目を思い出してしっかり観察してみましょう。
- 親子ともにやりとりを楽しんでいるのか、または、どちらか一方だけなのか、あるいは、どちらも楽しんでいないのかを注意して観察しましょう。
- 親から子どもに対する働きかけが義務的であったり（例えば、授乳を義務的に行っているなど）、また、親が暇を持て余して子どもをからかったり、あざ笑うなどの様子が見られていたら、支援が必要な状態です。見落とさないように注意してください。

4 子どもの尊厳

ア おなじ目線から見た働きかけ

自分らしさが育まれるよう必要な働きかけをしていますか

- 例えば、子どもが2歳ぐらいまでであれば、一緒に絵本を読む、遊ぶ、家事など一緒に生活体験をするなどの活動を通じて、子どもの育ちを促すようにしているでしょうか。

また、子どもの自己主張が強くなり、気持ちややる気も強くなるこの時期に、大きな声や手をあげることなく、子どもとおなじ目線から見て共感できそうなものを探しながら、どう対処したらよいのか、考える時間を子どもにあげながら、自分らしさが育まれるようにしていますか。

- 「家事や仕事などに追われて時間がない」「周囲からの応援がもっとほしい」など、どうしても難しい事情があって、子どもへの働きかけが十分にできないというニーズを持つ親の場合は、そのことを記録しておきましょう。

- 子どもの年齢に応じた項目をチェックしましょう。

- 学齢期（小・中学生）の質問は4つの要素に分かれていますが、それぞれの要素は相互に関係しあっています。そのため、すべてが確認できなくても1つの要素で判断して、評価をすることもできます。

イ みとめてほめる

子どもの変化，成長，成果に気づき，それをみとめ，ことばにして伝えて
いますか

- 子どもが目的を達成したときや，一生懸命やったとき，親はそれをどの
ようにみとめてほめていますか。また，それをみとめず，無視したりして
いないでしょうか。
- 子どもが目的を達成したときや，一生懸命やったときに，親は子どもへ
どのようにことばをかけているでしょうか。親の様子を確認してみましょ
う（例えば，子どもに「すごいね。どんなふうにしてやったの？」と問い
かけるのか，単に「よかったね」とだけほめているのでしょうか。または，
無反応なのでしょうか）。

ウ みとめられないことをしたとき

わかりやすく伝えていますか

- 子どもがみとめられないことをしたとき，一方的に責める，感情的に叱
るなどしていないでしょうか。
- もし可能ならば，子どもが叱られている場面を観察してみましよう。そ
れが難しければ，具体的な場面を想定するなどして親に尋ねてみましよう。
例えば「お子さんはかんしゃくを起こすことがありますか。もし，お母さ
んお父さんが疲れているときに，お子さんがかんしゃくを起こしたらどう
しますか。」などと尋ねてみましよう。
- 無視する，あざ笑うなど自尊心が傷つくような伝え方をしていませんか。
このような伝え方をしている場合は，早急に支援が必要です。
- 親の説明と実際とが違ってないかを注意深く観察しましよ。

エ 子どものプライドが傷ついたとき
しっかりと受け止め、支えていますか

- 親が叱ったあとや、先生などから叱られたとき、または、成績が悪かったときなど、子どものプライドが傷つくようなことがあったときに、親はそれをどのように受け止めているのでしょうか。実際の様子を必ず確認しましょう。もしそれが難しい場合は、近隣や関係機関など家族の暮らしをよく知っている地域の人に確認してください。

そして、親が子どもを拒否する、けなすなどしているのか、それともその子どもの良さを失わないように温かく、肯定的に受け止めているのか、そのどちらなのかを確認しましょう。